

2016年高麗郡建郡1300年記念事業



こ ま ふく しん
高麗福信歴史シンポジウム

～大出世した古代高麗郡の高麗(高倉)福信とは?!～

福信
ふくしん
巨萬朝臣
こまのあそん

2016年8月27日(土) 13:00～16:30
受付/開場12:00より
会場:鶴ヶ島市西市民センター 集会室

定員:150名(申込み先着順) 参加費:500円(資料代)

申込み:8月8日(月)より鶴ヶ島市西市民センター 電話049-286-7899

第1部

13:00 開会

13:10～13:40 解説:「なぜ高麗福信なのか?～その課題点～」

講師:加藤恭朗(坂戸市教育委員会)

13:40～14:50 講演:「高麗(高倉)福信とは、どのような人物か?」

講師:中村順昭(日本大学文理学部教授)

14:50～15:00 休憩

第2部

15:00～16:20 パネルディスカッション:「高麗福信を多角的に考察する!」

コーディネーター:中野高行(高麗浪漫学会理事)

パネリスト:中村順昭/加藤恭朗/高麗文康(高麗神社宮司)

16:20～16:30 閉会

主催:一般社団法人高麗1300/高麗浪漫学会

共催:鶴ヶ島市

後援:日高市/高麗郡建郡1300年記念事業日高市実行委員会/株式会社埼玉新聞社

プレ
講演会

8月8日(月)10:00～11:30 鶴ヶ島市西市民センター 集会室

講師:高麗文康宮司 演題「高麗郡建郡1300年と白鬚神社」

定員:150名(申込み不要、当日先着順) 参加費:無料

「高麗福信」歴史シンポジウム

講師からのコメント

「高麗福信(もと肖奈氏、のちに高倉氏)は、高麗郡に本拠をもちながら中央官人として活躍し、従三位まで昇りました。その間に武蔵守を3回も歴任し、新羅郡が置かれたり、武蔵国が東山道から東海道に変更されたのは、福信が武蔵守の時でした。武蔵国との関係を中心に、高麗福信の動向と人物像をお話したいと思います。」

【プロフィール】

1953年、神奈川県に生まれる

1982年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退

文化庁文化財保護部美術工芸課文部技官、文化財調査官を経て現在、日本大学文理学部教授、博士(文学)

(主な編著書)

『律令官人制と地域社会』(吉川弘文館、2008年)

『地方官人たちの古代史』(吉川弘文館、2014年)



日本大学文理学部教授
なかむらじゅんしよあき
中村順昭

◆高麗(高倉)福信とは?~考えると多くの疑問点が~

古代高麗郡の設立とその後の発展を考える時、高麗王若光と高麗福信の両人は歴史的に重要な人物です。この2人を抜きにして、高麗郡を語ることはできないと言われています。福信(709~789)は、高麗郡建郡前の入間郡で生まれたと推測される高句麗からの渡来人三世で、従三位という高い位まで昇進した奈良時代の官人です。もとの姓は肖奈公といい、その後、肖奈王、高麗朝臣、高倉朝臣へと姓を変わっていきました。

福信の詳しい経歴は、『続日本紀』延暦8年10月乙酉条に「高倉朝臣福信の薨伝(こうでん)」として記されています。聖武天皇から桓武天皇まで六代の天皇に仕え、幾つかの政変を乗り越えて朝廷で長年活躍し、地方出身者としては異例の従三位まで大出世しました。特徴的なのは、国の要職を兼ねながら、地元「武蔵国」の国守に3回も任じられたことです。これは、どのような意味があったのでしょうか? そのほか、若き福信を都へ連れて行った叔父の肖奈行文は、どのような人物で、なぜ官人であることができたのでしょうか? そのほか縁者にどのような人物がいたのでしょうか? 福信は、どうして大きな政変を乗り越えて出世することができたのでしょうか? その才覚とは・・・などと多くの疑問が浮び上がってきます。今後、福信という人物の研究が更に進むべきであると思っています。



会場までの交通案内

鶴ヶ島市西市民センター

〒350-2226 鶴ヶ島市新町4丁目17-8

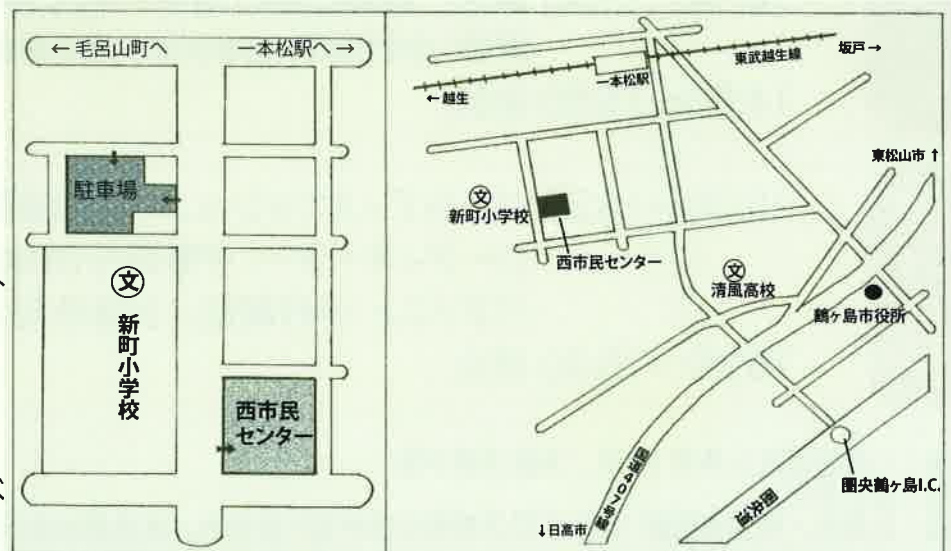
電話049-286-7899 FAX 049-271-5259

徒歩:東武越生線「一本松駅」より約20分

車:圏央鶴ヶ島インターより約10分

駐車場:西市民センター駐車場約50台

(注:駐車場は限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください)



問合せ先 一般社団法人高麗1300(高麗浪漫学会)事務局 電話 042-987-7432

〒350-1231 日高市鹿山283-5-201

E-mail:info@komagun.jp